

◇H28年度受講者：31人

- 〈内訳〉
- ・市町村職員：21人
 - ・住民団体等：10人

◇研修講師：山梨大学生命環境学部
地域社会システム学科
大山 勲 教授

No	研修内容	日時
第1回	景観の基礎について	H28.6.20 (月) 13:30~16:30
第2回	景観まちづくりの基礎	H28.7.4 (月) 13:30~16:30
第3回	課題①発表	H28.7.25 (月) 13:30~17:00
第4回	現地講習(県内)	H28.8.5 (金) 13:30~15:30
第5回	現地講習(県外)	H28.9.30 (金) 10:00~15:30
第6回	現地講習(県外)	H28.10.19 (水) 9:30~15:00
第7回	現地講習(県内)	H28.11.7 (月) 13:00~17:00
第8回	課題②発表 演習(ワークショップ)	H28.12.2 (金) 9:00~17:00

3 研修（第1回）の内容

『景観の基礎について』

1.はじめに

- 1) なぜ今、景観か？
- 2) 景観形成の目的と期待
- 3) 景観行政の現状
- 4) 地域景観リーダーへの期待

2.景観を捉える基礎知識

■景観計画はネガティブチェック(マイナスゼロにする)

景観法による規制 = 「著しく悪い景観の排除」

「良い景観」は規制によっては生まれない

■ゼロプラスへ

景観計画の先を進めていく必要 = 「景観まちづくり」

抽象的な景観形成基準の「調和」の内容を考える。

例)「富士山の眺望を阻害しない」とはどのような状態か？

例)「周囲の住宅景観に調和する」とはどのような状態か？

良い事例を見せる。増やす。褒める。

例)もてなしの屋外広告物

その気にさせる

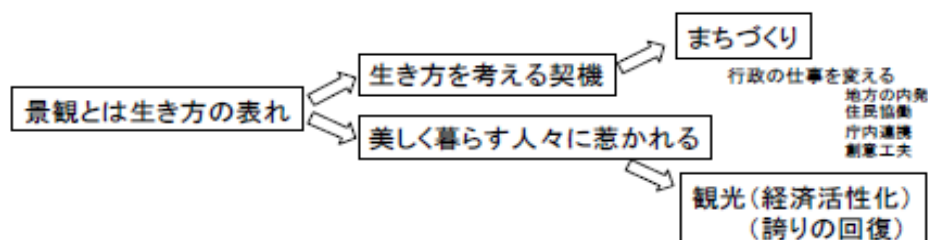
例)指導の説得力。

作るプロセスに巻き込む(場づくり)

1.はじめに 2)景観形成の目的と期待

景観形成の目的 住民の生活を豊かにすること

景観形成への期待



1.はじめに 4)地域景観リーダーへの期待

ネガティブチェックを超えて、地域の良さ(景観とそれを生み出す人)を育てる

まちづくりの推進

1. 事業者への協力願いと協働
2. 住民行政協働のまちづくり活動の実施
3. 総合的施策へ展開・コーディネート



4 研修（第2回）の内容

『景観まちづくりの基礎』

1. 第1回の復習
2. まちづくりとは
3. 景観まちづくりの事例
4. 美まち会メンバーによる「まちづくり活動の紹介」（市川地区中央部まちづくり懇談会、上高砂まちづくりプロジェクト、河口浅間まちづくりの会）
5. まちづくりはソフトだけではない
ソフトとハードがつくる「設え」
6. 制度化を目指す：景観地区、地区計画
7. リニアをチャンスに
8. 観光まちづくりについて
9. 日本の風土と景観と防災



まちづくり有志から自治会の活動へ

上高砂まちづくりプロジェクト・上高砂自治会の活動

国のモデル事業(男女共同参画)を契機(2007~2009)

グループ活動の自立(2009年)

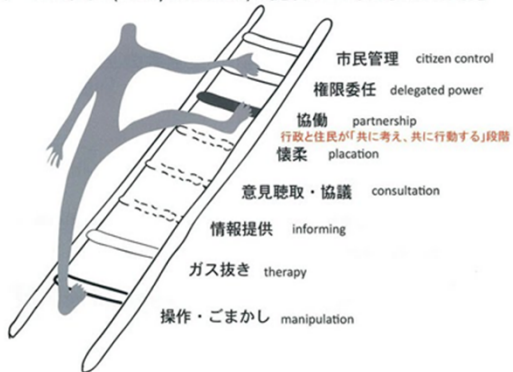
自治会の活動へ(2012年)

防災から総合まちづくりへ(国の事業(まち環など)を活用)

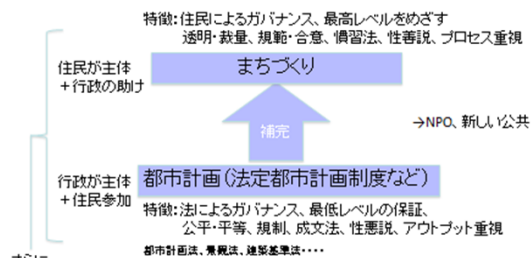
市川中央部 (市川三郷町旧市川大門町)

口江戸期に形成、伝統的街並み
口紙漉で栄えた
口木造密集市街地・狭隘道路

アーンスタイン(Sherry R.Arnstein)が提唱した「市民参加の階梯」



<まちづくり=住民・行政協働> 住民だけでは「まちづくり」は進まない
まちづくりの推進においても行政の役割は大



さらに
住民と行政が補充あって(役割分担をわきまえながら)同じ目標を異なる方向から協働で目指す) = まちづくりは住民と行政の協働によって実現 = 内発的地域づくり

補足)まちづくり(Machiizukuri)は他国には無い概念。欧米では都市計画に内包(コモンスの危機感があったから)。アジアでは日本の失敗を見てまちづくりに字がつく。

参考文献)まちづくり学(2007)に加筆

先進地に学ぶこと

初動: まちづくり活動をどのようにスタートさせるか
持続: まちづくり活動をどのように継続させるか

まちづくり活動の特性

成果が見えにくい(長期的) = 成果よりプロセス重視
発見→企画→小さな実行→評価 のくりかえし
継続が力(長続き重視・無理しない)
まちづくりは絶対に失敗しない

「目標設定→確実な成果(単年度)」に馴染まない

○町道移管に伴う道路整備の提案

ワークショップ 勉強会・まち歩き 先進地事例視察

河口地区の景観まちづくりに資する道路となるように

○提案書「道づくり住民プラン」の提案

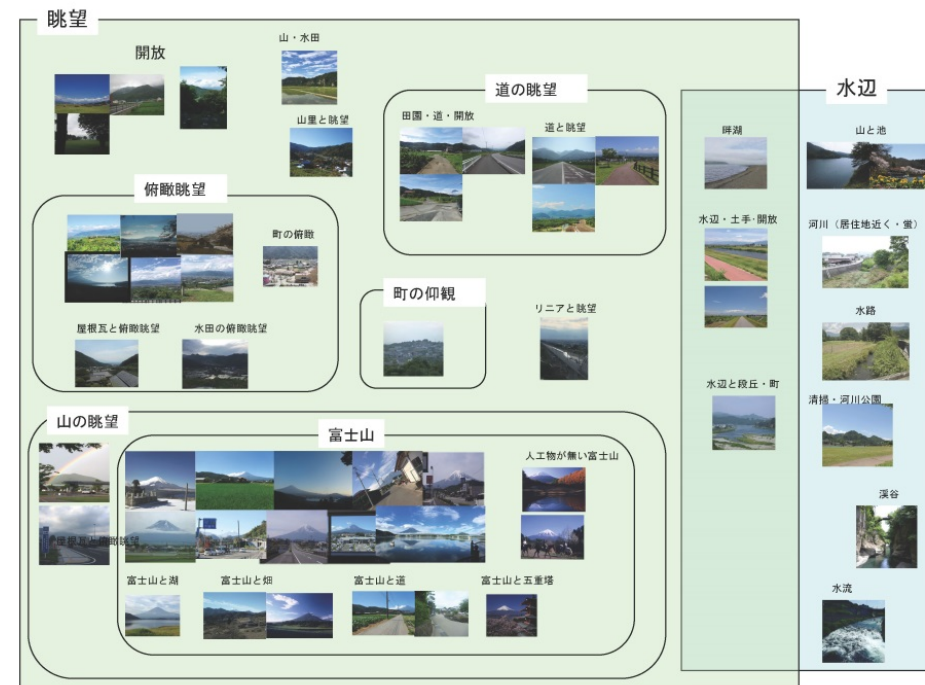
5 研修（第3回）の内容

課題①発表

1. 課題①「あなたの身近な地域の良い景観の写真（地元自慢）及びあなたの地域景観活動への取組みについて（自己紹介）」の発表
2. 質疑
3. 課題講評



良い景観の分類例



6 研修（第4回）の内容

現地研修『忍野村における景観づくり』

1. 景観形成モデル事業
2. 世界文化遺産景観形成支援事業
→ 各種事業による修景事例の視察（景観づくり推進室 金山技師）
3. 修景を行った住民の声



現地研修『三島市の景観まちづくり』

協働による景観まちづくり

1. 街中がせせらぎ事業
～歩きたい街、住みたい街をめざして～
2. 景観重点整備地区（5地区の紹介）
3. ガーデンシティみしま



【土色舗装】

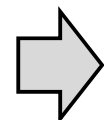


街中がせせらぎ事業

【事業計画づくり】

- ・総論のワークショップ
→各論のワークショップ
(住民と400回以上実施)

(提案)



(協働で大切なこと)

- ・対話
- ・情報の公開
- ・合意形成
- ・役割分担

(テーマ)

- ・回遊性
- ・楽しく歩くための工夫

【整備内容】

- ・土色の脱色アスファルト
- ・水の仕掛け
- ・アダプトプログラム（里親制度）

(保全)



【ほか、整備内容】

- ・三島駅（南口）
- ・三島市総合観光案内所
- ・源兵衛川の再生
- ・案内サイン

【景観重点整備地区の指定】

- ・白滝公園・桜川地区
- ・源兵衛川地区
- ・蓮沼川
- ・大通り地区
- ・芝町通り地区

(創出)

三島の景観資源として「花」を加え、各種取り組みを実施。

- ・市街地の花飾り
- ・地域花壇、企業花壇
- ・推進会（89団体） など



【源兵衛川】



【案内サイン】



【花飾り】

現地研修『松本市の景観まちづくり』

協働による街なみ環境整備事業

1. 歩いてみたい城下町整備事業

（中町、お城下町、お城東、中央東、お城周辺）

2. まちなみ修景事業

3. 水めぐりの井戸整備事業

歩いてみたい城下町整備事業

【事業計画づくり】

・松本城周辺の5地区各々の地区の特徴をふまえ、地区間を連携。何度もワークショップを行った。

協働とは市民と行政と一緒にやること自体に協働の意味はない。

『目的を共有する』ことが、協働の大前提

【協働の視点】



整備方針の策定



整備計画の策定・まちづくり協定等



地区施設の整備・住宅等の整備

（道路、集会所、公園等）

（修景施設に補助）

豊富な舗装デザイン



修景



【中町通り】



【松本城からの眺望】

松本市景観計画によるお城周辺の高さ規制

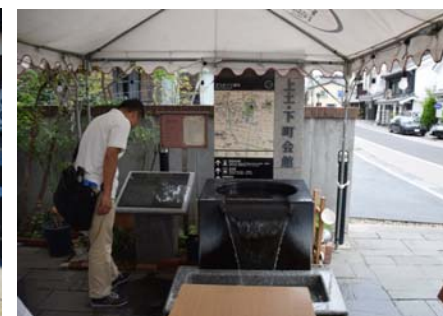


【変電ボックス】



【花の飾り】

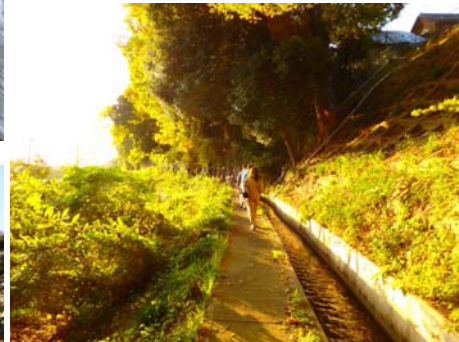
水めぐりの井戸整備事業



9 研修（第7回）の内容

現地研修『勝沼フットパス』

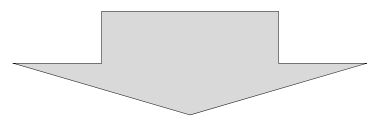
1. 地域資源を活かした「文化の見えるまちづくり」の勧め
（宮公園 施設長 三森哲也氏）
2. 宮光園ビデオ鑑賞及び園内見学
3. フットパス



10 研修（第8回）の内容

課題②『あなたの地域でのまちづくり活動の調査』発表 （内容）

あなたの地域で行われているまちづくり活動について、住民と行政がどう係りあっているかなどの調査を事前に行い、当日発表を行った。



演習：ワークショップ

『まちづくり活動を初動させるためには何をすればよいか』

『まちづくり活動を継続、発展させるためには何をすればよいか』

